

例8： 「映画評論」

作文

上級

中等プログラム 5年

基準	A	B	C	D	E
得たレベル	-	-	8	8	-

背景

- ・ 四週間に渡る単元で、メディア/媒体について学んだ。日本語でいろいろな映画を見たり、それらの評論を読んだりした。その後、評論の書き方を学んだ。その他、本の評論やサイトの評論といった個人的な批評についても学習した。生徒は試験課題としてそれまで見た映画の中から、どれでも好きなものを選んでその評論を書いた。生徒には実際の課題を前もって知らせるということとはしなかったが、自分たちの好きな映画、本、有名な俳優や歌手について調べるようにという指示は行なった。600字を書くために必要な情報を集めるためである。
- ・ この課題は試験として一時間の制限時間で行なったが、ワープロの打ち方を学習することも単元の一つだったので、生徒はコンピューター室でワープロを使って作文を書いた。生徒にはログインさせていないので、自分で前もって集めた情報を使うということは彼らにはできなかった。
- ・ 辞書、教科書、メモは持ち込み不可とした。
- ・ 同課題は、基準C及びD内で評価してある。
- ・ 当生徒は日本語を7年間学んでおり、十分な日本語の力を持っている。来年、日本語BのHLを取りたいと考えてMYPの言語B上級を選んだ。

評価

基準C 内容と構成

最高レベル8

この作文がレベル8を得た理由は 以下の通りである。

- ・ 複雑な情報を伝えている。
- ・ テーマに沿った意見や考えを述べ、的を絞り、例を使って理由付けをしている。
- ・ テーマについて深い理解力を持っている。
- ・ 接続詞をうまく使って意見を展開している。

基準D 言語

最高レベル8

この作文がレベル8を得た理由は 以下の通りである。

- ・ 豊富で洗練された語彙力である。
- ・ 豊富でかつ正確な漢字力がある。
- ・ 複雑な文法を使いこなす文体の質を上げている。
- ・ 読み手をはっきり意識している。
- ・ 効果的な言葉遣いと文体である。

生徒回答

一番好きな映画について作文を書いて下さい [600字]

私の好きな映画の題名は、「いま、会いにゆきます」です。この映画は、「家族愛」をテーマにしたもので、小説を映画化した感動の作品です。

作者は、市川拓司で、彼の今までにたくさん出版した本の中でこの小説が一番売れたと思います。

主人公は、一つの家族です。夫のたく、妻のみお、そして、息子のゆうじです。

この話は、夫のたくと息子のゆうじ、二人の生活から始まります。たくには、記憶力が弱いという障害を持っています。

たくのみおは、高校生からの友達でした。二人は、よく連絡を取り合っているうちに自分たちがお互い恋をしているという事を知らずに大人になっても仲の良い友達でした。

みおは、過去に交通事故に合い、意識不明の中で八年後の自分についての夢を見ました。その後、意識を回復し、普通の生活に戻った後たくとまたで会い、結婚して、ゆうじを産み、同じ年の雨季に亡くなったみおは、過去に見た八年後の自分がある現実の世界へ幽霊として現れるものです。

それは、翌年の雨季になるとみおが幽霊として現れ、普通の人間のように生活をし、雨季の終わりに去って行くのです。これは、みおが亡くなる前に「雨季が来たら、ちゃんとやっているかどうか見に来るね」とたくへ言ったことを実行しているのです。

私は、この映画を見て、とても感動し、強い家族愛の物語だと思いました。みおの夢が実は、現実の世界へ幽霊として現れるとは、思いもしませんでした。しかし、みおは、自分が死ぬと分かりながら、たくと結婚し、ゆうじを産んだ事にも驚きました。私のみおだったら、私も同じことをしたに違いないと思います。なぜならば、誰かを愛しているならば、一緒にいたいと思うからです。